

交流・文化施設等運営管理計画検討委員会（第4回美術館検討委員会）次第

日 時：平成23年3月10日（木）  
午後1時30分～

場 所：上田市役所6階 大会議室

1 開 会

2 会議事項

（1）運営管理計画（案）の検討について

（2）その他

・今後の委員会開催日程について

3 その他

4 閉 会

（配布資料） 交流・文化施設 運営管理計画（案）

## 交流・文化施設 運営管理計画（案）

## 事業計画（事業展開・主な事業内容）について

## 1. 美術館部分の事業計画

## 美術館運営の理念

上田市ゆかりの郷土作家、山本鼎、石井鶴三らは、その優れた作品はもとより、日本における近代美術教育を確立してきた先覚者であり、そういう意味で信州上田は、「日本における近代美術教育の聖地」ともいえる場所であります。

本美術館の運営にあたっては、「現代美術教育の聖地信州上田」として、こうした先人の思想・精神を活かしながら、交流・文化施設全体の基本理念、「育成」を基本に「鑑賞」「創作」「交流」等の活動が行われ、人が、まちが、豊かに育まれる上田市を目指すとともに、特に地域の未来を担う子どもたちを、「人間性」「創造性」豊かに育ててまいりたいと考えます。

また、併せて、これまでの上田市にはなかった本格的な美術館として、多くの市民が気軽に訪れ、様々な文化・芸術と触れ合い、文化の裾野を広げ、地域文化の醸成を図ると同時に、現代社会に対応した新しい美術館として、広範な地域から人々が集い、憩い、交流する場となり、まちの賑わいや活力を生み出す拠点ともなるよう、長期的な視野のもと取組んでまいります。

## (1) 事業方針

## 郷土作家の顕彰・企画展示

上田市ゆかりの郷土作家の作品展示及び顕彰、並びに幅広いテーマに沿った企画展示を行います。

## 創作・創造性を高め、参加・体験できる施設

文化芸術活動や、参加・体験型活動を通じ、市民文化の育成に向けた支援を積極的に行います。

## 開かれた施設、外に出て行く施設

市内全域をフィールドに、学校や福祉施設等と連携したアウトリーチ活動を行います。

## ボランティア組織の形成

運営管理に市民が関われる環境を整備し、市民にとって身近な施設づくりに努めます。

## ホール部分や交流施設等との連携

ホールや交流施設、市民緑地等と一体整備される特性を生かした事業を行います。

（記載の根拠・考え方・委員の発言要旨・参考資料等）

## 委員会意見

- ・ 石井鶴三も山本鼎も、日本における近代美術教育に頭を置いて活動を展開してきた、山本鼎はそれまでの図画教育から、新しい美術教育を展開してそれが日本中に広まっていった。石井先生は、今までの置物とか飾り物の彫刻を芸術性の高いものに変えようとして、子どもたちを教え、教師たちを教育する講習会をやってきた。
- ・ そういう風を感じない市民のかたも多いが、そういう意味で信州上田というのは日本における近代美術教育の聖地といえる場所。それをきちんと据えて、その思想精神を21世紀の現代に再びよみがえらせる、そういうものがきちんと据わらないと、美術館でやっていく各種事業が光を帯びてこない。
- ・ 整備計画でも、郷土の先生方をきちんと顕彰するとともに、その精神をさらに拡大的に事業に盛り込んでいって、教育やワークショップその他に広げて行きたいという理念が反映されていないわけではない。ただ、それほどのすばらしい作家であり日本における聖地であるこの上田市の上田市民がそれほど感じていないことが残念ではあるが現実で、市民全体の理解を得るためには、こうした現実も踏まえた上で、事業計画等を考えていかなければならない。
- ・ 郷土の作家をきちんと研究し広めていこうという動きと、皆に開かれた美術館にしようということは実は近いようで矛盾している場合もある。特に女性は、気軽に日常と違うところにとりあえず行ってみたいと思うことも多い。開かれて収益性も追求したいとすると、女性がたくさん来てくれる美術館にするというのは、それがひとつの目的なのかという気がする。
- ・ 例えば金沢 21 世紀美術館は当初から前掛けをかけて入れる美術館という敷居の下げ方をコンセプトに掲げた、だから近所の人も気軽に入れるというイメージして成功した。でも、上田の場合の敷居の下げ方はそこまですべきかと考えると、気軽にではあるが、「ちょっとおしゃれをして余所行きを着て行きたい美術館」「非日常的空間」にしたほうが良いのかという気がする。
- ・ 子どももアトリエ等で呼ぶが、若い女性も含めてご婦人をどう呼ぶかというのも考えている必要があると思う。一番信用できるのは地域のご婦人の口コミだと、それをどうやって育てるかが大切であると思う。

事業方針 整備計画記載事項

(2) 事業展開

“ 展示活動 ”

常設展示活動

- ・ 上田市ゆかりの郷土作家（山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人等）の作品を中心に、展示を行う。
- ・ 作品展示と併せて、それぞれの作家の活動・思想・精神等を紹介する顕彰展示も行う。
- ・ 各作家を深く掘り下げ、また多くの人々に繰り返し来ていただくため、常に全作家を展示するのではなく、サイクルで展示作家・内容を替え、特徴を持たせた常設展示とする。

(事業の例)

名 称	常設展示
年間本数	年 4 回展示替え
実施内容	山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人を基本とした常設展示
主な会場	常設展示室
特記事項	収集・管理・調査・研究活動と合わせて進めていく必要がある。

企画展示活動

- ・ 常設展示活動と連動しながら、郷土作家の思想・精神、また人脈等を活かし、様々な企画展示を行い、全国に向けて発信していく。
- ・ 特に、農民美術などの地域に根ざした生活・文化を大切にし、総合芸術と捉え幅広く展開する。
- ・ 併せて、他館との連携による巡回展や、企業・マスコミ等との共催による企画展など、効率的・効果的な手法を検討しながら、多くの人々が見たいと思う、魅力ある企画展も実施していく。

(事業の例)

名 称	企画展示
年間本数	年 2 回程度
実施内容	郷土作家と関連した企画展示 市民が望む魅力ある企画展示
主な会場	企画展示室
特記事項	実施内容は、市民のニーズ等も把握し、集客力も見込める企画とする必要がある

巡回展示活動

- ・ 県展等の大規模展覧会の開催・運営支援を行う。

(事業の例)

名 称	巡回展示
年間本数	年 1 回
実施内容	県展等
主な会場	企画展示室、市民ギャラリー、多目的ルーム、交流プロムナード等
特記事項	壁長最低 40m 必要

委員会意見(常設展示)

- ・ それぞれに室を作るのは、財政的にも面積的にも難しい。また、常設展示で固定してしまうと、大規模展などのときには、異質な部屋になってしまう。やはり、各作家をサイクルでまわしていくということで良いのでは。
- ・ リピートのお客さんに何回も来てもらうとすると、作家それぞれが最低何枚かは常設で見ることが出来て、企画展示として個別に全部見られるということをやうまくやっていけば、解決できるのではないかと思う。
- ・ 偉大な先生方ではあるが全国的に多くのお客さんを動員するのは実際にはなかなか難しいし、むしろ市民の皆さんが使っていく美術館として大局的にはならざるを得ないと強く感じている。

各作家の所蔵作品、展示状況

	山本鼎	石井鶴三	ハリー・K・シゲタ	中村直人
功績	日本創作版画協会を設立し、創作版画の父として近代日本美術史において重要な作家。児童自由画運動、農民美術運動等の功績が大きい。	上田で半世紀に亘り彫刻講習会の講師を務めた日本近代彫刻会を代表する彫刻家。信濃の美術教育に大きな影響を与えた。	上田市原町出身。アメリカに渡り商業写真で成功を収めた。ピクトリアリズム(絵画的写真芸術)写真に挑戦し数々の作品を遺した。	上田神川村で育ち、上田の風土から生まれた彫刻家・国際的な画家。戦後に渡仏し、パリの展示会で高い評価を受ける。
展示状況	山本鼎記念館(展示面積約 230 m <sup>2</sup> )	小県上田教育会 2階資料室(展示面積約 70 m <sup>2</sup> )	展示なし	市役所庁舎内に一部展示
市所蔵数	1,114	26	1,531	20
寄託数	7	0	0	97
計	1,121	26	1,531	117
所有状況	鼎記念館での収蔵資料は、絵画、版画、水彩画、挿絵、その他関連資料等計 1,121 点。	市所有作品は全てブロンズ像で、小県上田教育会に寄託している。この他、教育会所蔵の作品 667 点がある。	写真約 30 点以外はネガで保存。現在、資料は創造館の収蔵庫へ保管を依頼している。	市所有の 20 点以外は個人が所有し、市が寄託。これらは創造館へ保管依頼している。

委員会意見(企画展示)

- ・ 郷土作家の思想精神を現代によみがえらせるという大きな目標に沿って、さまざまな企画がなされていくことが、企画展を企画していく大きな柱だと思う。
- ・ 石井鶴三も山本鼎も人脈が広い、それを利用して展覧会を行っていけば尽きることが無い
- ・ 外の館と巡回展だけでなくジョイントすることは良い。例えば山本鼎と村山槐多を持っている美術館とセットで全国を回ったりすることも考えられる。
- ・ 農民美術の将来に向けても、全国に発信できるような作品作りをやって、暮らしとアートみたいな企画展など、後継者の育成につながるような、総合芸術という方向にいけるような地盤を計画したい。広い意味での生活と美術というようなものを目指していければ。総合芸術という方向にいけるような地盤を最初から計画したい。
- ・ 山本鼎の農民美術における生活と絡むという形では美術館の柱の中に工芸という視点が入っても良いかと思う。
- ・ 上田市には今まで本格的な美術館が無かったので、市民の皆さんにどんな展覧会が見たいか、アンケートなりを行い、何らかの形で興味を持ってもらうことも大切だと思う。

“ 参加・体験型活動 ”

“ 子どもアトリエ ” 活動

- ・子どもたちそれぞれの感性を磨き、豊かな心を育むよう、文化芸術と気軽に触れあい、体験的に学べる各種講座を提供する。
- ・幼児から小学生までを基本的な対象とし、生涯を通じて文化・芸術と触れ合っていく入口となるよう楽しく親しみや興味を持てる内容とする。
- ・併せて、子どもと一緒に親も文化・芸術と触れあい、家族のコミュニケーションをバックアップする企画も実施する。

(事業の例)

名 称	子どもアトリエ
年間本数	年間を通じて各種講座を実施
実施内容	幼児対象プログラム(保育園・幼稚園を対象に、各種プログラムを実施) 子ども造形講座(休日・夏休等を中心に、年代別に各種プログラムを用意) 親子ふれあい講座(休日・夏休等を中心に、親子で参加し楽しめるプログラム) 子どもギャラリー(子どもが興味を持つような絵や、触れる彫刻などを展示)
主な会場	アトリエ
特記事項	

教育(学校)との連携

- ・教育委員会・各学校等と連携し、学習プログラムの中で、美術館を活用できるよう調整する。
- ・小学校、中学校の間で各1回ずつは美術館を訪れるよう努める。
- ・単に芸術と触れ合うだけでなく、パブリック空間でのマナーなども学べる場とする。
- ・学校の先生方にも郷土作家の理念等を御理解いただき、教育に活かせるような講座を開講する。

(事業の例)

名 称	教育(学校)との連携
年間本数	随時
実施内容	小中学校の芸術鑑賞、造形教室 教師のためのワークショップ
主な会場	展示室、アトリエ、市民ギャラリー、会議室等
特記事項	ホール部分での連携策とも調整必要。

市民アトリエ・市民文化活動支援

- ・地域の芸術家や市民が、自由に様々な芸術活動を行えるよう、アトリエを貸出し、また、市民文化の裾野を広げ、市民文化団体の活動の活発化、レベルアップなどに向けて各種の支援を行う。

(事業の例)

名 称	市民文化活動支援
年間本数	随時
実施内容	アトリエの貸出し 市民文化活動支援
主な会場	アトリエ等
特記事項	

委員会意見(子どもアトリエ)

- ・教室だけの授業では創造性にかける、土日等でそういった活動があればいいと思う。学校で出来ないものを作って行きたいと思う。
- ・親子ツアーみたいなものにしていくことによって、家族のコミュニケーションも図れ、父母と子どもという関係をバックアップできるようなものを打ち出すことが良い。
- ・目の力と手の力を一緒に育てようというところに立ち位置がある。風景を書く前に、名画を3、4枚見せただけで、子どもは目が少し肥えて手がぐっと良くなっていくことがある。鑑賞と手の部分を組み合わせて、上田市らしい自由画教育とつけていくのが良い。評価も重要、賞が与えられるということではなく、他者を認め、自分の作品との距離を確認する作業が必要。
- ・学校が年に1回の社会見学を選んでもらうというのも数年がかりで、だからこそ親子という発想もある。学校を通じての子どものつながりと家庭を通じての美術館とのつながりというのはイコールではない。

委員会意見(教育との連携)

- ・学校行事での見直しをして、社会見学コースで体験型のメニューを入れていくといい。何かちょっとした上田の文化的なお土産が出来るような体験を取り入れると意義のある社会見学になる。
- ・社会見学はまず自分たちの地域を良く知るところからだんだん郊外に広がっていく、単独で美術館に来て、半日、一日となると前の年度から学習内容と合わせていくことになる。図工の時間数のカウントも関係してくる。すぐやるというのは難しい。
- ・学校との連携プログラムで、造形活動には準備、後片付けを含めてかなり目に見えないものが必要になる。そういうものを美術館で用意しておけば、学校で用意できないような専門的なことも体験できるかと思う。
- ・学校の教師も子どももそうだが、郷土作家が誰といわれてもわからないくらいの感じの人が多い。教育の現場からすると子どもたちがまず行かれるような企画。子どもたちにもわかる、それからお母さんがたやそういう人たちも行ってよかったねって思える、あまり難しいことをやってもだめだと思うが、そういう企画を考えて、例えば冬場は版画を学習しているので、そういう時に関連付けて、教育と関連付けた鑑賞も出来るかなと思っている。子どもたちにどんどん発信していかないとその子どもたちが大きくなって、自分の子どもにどのように伝わっていかない。
- ・教育現場とすれば、十分な専門性を持って指導を行うということがなかなか出来ない。各学校に図工室があるがなかなか活用されていない現状。先生方の研修会が出来る美術館であって欲しい。
- ・子どものためにというときに、野放図に子どもに合わせるわけではない、世田谷区は全小学生が一度は世田谷美術館へ行ってパブリックな空間というのはどういうものであるかということを知ってくる。子どもを尊重するからこそ大人扱いするという視点も大事かと思う。

#### ワークショップ（市民の文化体験）

- ・市民が気軽に文化・芸術と触れ合え、体験できるよう、各種ワークショップを実施する。
- ・現在、山本県記念館で行っている美術教室をベースに充実を図っていく。
- ・郷土作家と縁のある絵画、版画、彫刻、農民美術、写真を中心とした講座とする。

（事業の例）

名 称	ワークショップ
年間本数	5回程度(各1回)
実施内容	絵画、版画、彫刻、農民美術、写真等のワークショップ
主な会場	アトリエ、会議室等
特記事項	

#### 文化の発表・発信(市民ギャラリー)

- ・市民ギャラリーを中心に、市民や各種文化団体が、日頃の文化・芸術活動の成果を発表する場を提供する。

（事業の例）

名 称	市民ギャラリー
年間本数	通年（随時）
実施内容	市民の文化活動の発表 東信(上小)美術展等各種展覧会
主な会場	市民ギャラリー、多目的ルーム、交流プロムナード等
特記事項	

#### ボランティア活動（美術館運営への市民参加）

- ・市民が美術館の展示や運営の面でも関わりを持ち、市民とともに歩み育っていく施設となるよう、各種取り組みを実施する

（事業の例）

名 称	美術館運営への市民参加
年間本数	年2回程度
実施内容	受付、案内、解説等のボランティア養成講座、キッズサポーター養成講座など
主な会場	ボランティアルーム、会議室等
特記事項	

#### 委員会意見

- ・ボランティアを作っていくということが、交流文化施設を造るひとつの価値。施設が出来てそれをみんなで支えていこうという市民を作ることが大事。
- ・ボランティアはとても良いが、誇りと自尊心があるので、雑用を頼むのであれば、きちんとアルバイトとして頼んだ方が良いと思う。
- ・ボランティアは決して無料の労働力ではない。ボランティアを最初から戦力として考えるのはなかなか難しい。活動と供にボランティアというものが実をなしていく。
- ・ボランティアのかたには、体験型活動やアウトリーチのときに経験を生かして指導者になっていただいたり、経験が無くても一緒に子どもたちの指導をやっていただきたい。

## “アウトリーチ活動”

### 出張展示・講演会活動

- ・地域の公民館をはじめ、小中学生や、高齢者・障がい者など、普段美術館に足を運べる機会少ない人々に向けて、出前で各種の展示や講演会を行う。
- ・郷土作家の作品展示、理念や業績の紹介を中心とする展示・講演活動を行うとともに、文化・芸術の持つ暖かさ、素晴らしさを広く知っていただき、文化・芸術の裾野を広げるような活動も行う。
- ・地域の芸術家や美術館ボランティアなどとも連携し実施していく

#### (事業の例)

名 称	アウトリーチ活動
年間本数	年 2回程度
実施内容	出張展示、各種講演会
主な会場	市内各学校・施設、公民館等
特記事項	

## “収集・管理活動”

### 収集・管理・調査・研究

- ・郷土作家を中心に、収集・管理を行う。
- ・郷土作家の思想・精神を全国に発信し広めていくための調査・研究活動を行う。

#### (事業の例)

名 称	収集・管理・調査・研究
年間本数	随時
実施内容	常設展示の4人の作品を中心とした収集・管理 展示活動や普及活動に資するための調査・研究、及び成果の発表
主な会場	常設展示室等
特記事項	作品の収集方針、選考体制等を別途検討する必要がある。

## “広報活動”

### 広報活動

- ・多くの人々が美術館を訪れ、文化・芸術に触れていただけるよう、各種媒体を利用し、工夫しながら広報活動を行う。
- ・特に企画展・特別展等の開催に合わせて、強化する。

#### (事業の例)

名 称	広報活動
年間本数	随時
実施内容	チラシ、ポスター、パンフレット等の各種印刷物の作成・配布 各種メディアやインターネット等を利用したPR 美術館オリジナルグッズ等の作成・配布 など
主な会場	
特記事項	

#### 委員会意見(アウトリーチ)

- ・佐久市立近代美術館での「出張まちじゅう美術館」の取り組み。
- ・各美術館が所蔵品を子どもに鑑賞させるためにDVDを作り出張鑑賞の代わりにしている。鑑賞のポイント付きで今の絵についてどう思うか議論が出来るようなものを考えている。

#### 委員会意見(収集・管理)

- ・日本の近代美術教育に深く関わっている土地柄という意味をもう一度掘り起こしていくという活動を、この美術館を拠点としてやっていくということでは誰も依存はないと思う。それには、この事業方針、事業内容に出てこない言葉として、調査研究がある。調査研究も館の業務として行うべき。

#### 委員会意見(広報)

- ・準備段階から、地域女性の意見も大事に聞いて返してやるということによって地域の口コミを高めていく
- ・非日常的なよさがありながら敷居が低いという点で、意見を聞いてくれるというのは大事
- ・山本鼎記念館の版画大賞のような企画展、公募展を発信していくのは非常に大きな広報活動
- ・草の根的な口コミのために、長崎県美術館では、美術館の中にある作品を子どもたちが塗り絵をして、それを缶バッチにして持ち帰ってもらうことをやっている。子どもは自分が作ったものだから、みんな次の日に学校に付けていく、そうやって、みんなの口コミのレベルを上げていくというのもやっておいたほうが良い。

“総合的事業”

全国的美術コンクールの実施（山本鼎版画大賞展）

- ・“山本鼎版画大賞展”を通じ、山本鼎の思想・精神の普及にさらに努める。
- ・全国にアピールできるような新しいコンクール等の実施についても検討する。

（事業の例）

名 称	山本鼎版画大賞展
年間本数	3年に1回（トリエンナーレ）
実施内容	山本鼎の思想に基づく独創性・芸術性を追求した作品や新人の意欲的な作品の発表の場
主な会場	企画展示室、市民ギャラリー等
特記事項	

ホール等と連携したメイン事業の実施

- ・新しい施設の魅力、上田の文化を全国に向けて発信し、上田の“顔”となるような事業を実施する。
- ・交流・文化施設全体を活用した、幅広いジャンルにわたる事業とする。
- ・鑑賞だけでなく参加型のイベントとし、さらに育成や創作も組み込んだ多様なメニューを提供する。
- ・本施設を核としながら、中心市街地・市内全ホール施設等を活用した事業となるよう育てていく。

（事業の例）

名 称	上田 フェスティバル
年間本数	年1回（夏、2週間程度）
実施内容	各種コンサート（誰もが楽しめるポップス系を中心に、バリエーションに富んだライブを実施）、芝生広場での野外ライブ、美術館でのミュージアムコンサート等も検討 音楽だけでなく展覧会、トークショー、また歌舞伎等とのコラボレーションも検討
主な会場	交流・文化施設全体 中心市街地・市内他の文化施設等も巻き込み全市的な賑わいへ
特記事項	フェスティバル全体で共通テーマを設け、一体感を持ちながら幅広いメニューを実施する 実行委員会形式により、民間企業の協賛・市民参画を積極的に促し、ある程度の採算性も見込んだ事業とする。 中心人物＝施設の広告塔ともなる名誉館長、も見据えた事業として検討を進める。

市民が主体となった総合芸術祭の実施

- ・市民が中心となり、日頃の文化芸術活動の成果を発表し、交流しあう場を提供する。
- ・複合施設としての特長を活かし、文化・芸術・芸能活動を幅広く対象とする。

（事業のイメージ）

名 称	上田市民総合文化祭
年間本数	年1回（冬）
実施内容	日頃市民が主体的に活動している各種団体・サークル等が一堂に会する発表・交流の場 （合唱、合奏、演劇、ダンス、舞踊、バンド、絵画、彫刻、写真、書道、陶芸、華道、茶道、詩吟、俳句、カラオケ・・・） 市民合唱祭、オリジナル市民ミュージカルの制作、公演
主な会場	交流・文化施設全体
特記事項	

（ホール委員会との共通課題）

委員会意見

- ・東山魁夷館でもギャラリーコンサートをやっている、ピアノや室内楽をやると雰囲気がいい。お菓子やレストランもそうだが、今までの協議の中で、美術館は開かれているが、同時にいい意味でのハイソなイメージ、非日常空間をアピールしていかなければならない。そういった中では、まったく異分野、食べ物であるとかを巻き込んでいかなければならないし、同じ芸術として、音楽も取り入れていかなければならない。

（ホール委員会との共通課題）

1 交流・文化施設全体の運営管理体制・組織

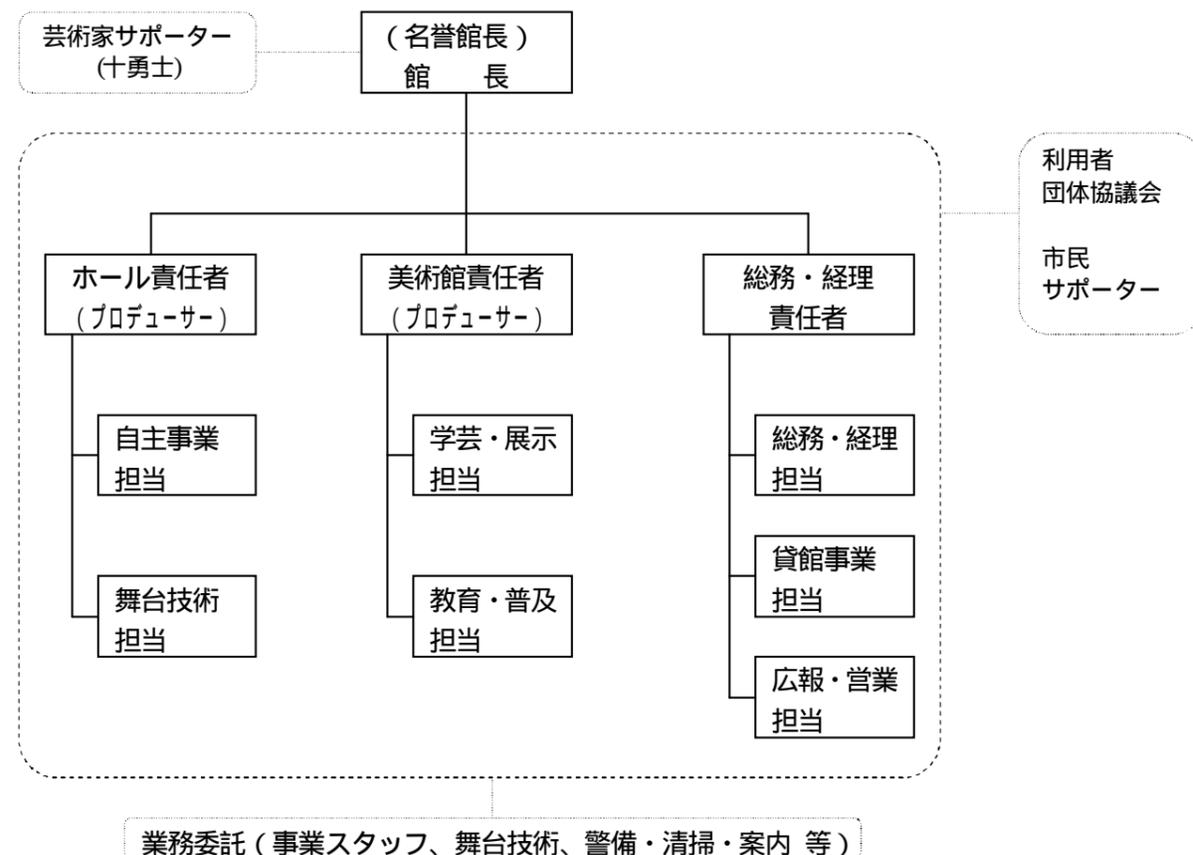
(1) 直営か指定管理者か

- ・本施設が上田市の今後の都市創造に大きな役割を占めることを考えると、設置主体である市が、責任を持って運営管理していくことが重要です。
- ・そのため、将来的な指定管理者制度の導入を視野にいれつつも、当面は上田市の直営施設とし、運営管理を進めながら再度検討を行っていくこととします。
- ・また、これだけ大きな施設で必要な事業を実施しつつ、プロ公演の貸館誘致も進める視点から、ホール部分・美術館ともに、各部門のトップには、それぞれの業界にネットワークを有する専門人材を外部から招き、必要に応じてスタッフにも専門人材を配置することとします。

(2) (ホールと美術館が) 一体組織か分離組織か

- ・基本的には、施設の“顔”となる「館長(名誉館長)」をトップに、実質的な事業運営には、ホール・美術館それぞれに事業運営に詳しいプロデューサーを置いて事業運営の責任者とし、総務・経理部門は館全体で一括管理とし、全交流機能を含む施設全体の貸し館業務の窓口等もここで対応することとします。

図 運営組織の形態案



委員会意見

- ・無駄なところは削るにしても、市が責任もってきちんと運営していくというのは大前提。運営の基本とする理念を全国に伝えていくということでも、責任ある運営ならびに仕事ができる職員が必要で、そういったところにお金を費やすのは異論が無いと思う。一時は日本全国指定管理にすればよいという状況だったが、今は逆に公的な美術館の責任が問われるようになってきた。

直営と指定管理者の比較

<第1案> 直営

- ・利点は、設置主体として政策をダイレクトに反映できる点、教育や福祉、地域経済や産業など、市の関連部署との連携が容易な点。
- ・デメリットは、プロデューサーなどの専門人材が決裁権を持つ組織とするのが難しい点、専門職の長期的な雇用が困難な点、複数年に亘りがちな公演事業と単年度予算が合致しない点、新たな試みがなされにくい点など。

<第2案> 指定管理者(民間企業)

- ・利点は、民間ならではの企業努力や機動力が期待できる点、複数年に亘る予算措置が可能な点、専門職の雇用の枠組みを確保しやすい点など。
- ・課題は、維持管理費が不明な段階からの指定管理はトラブルが想定される点、指定期間が定まっているので長期的な視野や市の文化振興への視点が欠けがちな点、市内にノウハウが残らない点など。

<第3案> 指定管理者(市関連の公益法人)

- ・利点は、専門職の雇用の枠組みを確保しやすい点、長期的な視点から市の文化振興を担える点、地域に人材が育成される点、事業の継続性が確保しやすい点など。
- ・課題は、維持管理費が不明な段階からの指定管理はトラブルが想定される点、既存財団の枠組みでは経理処理や契約方法などが公演事業等と合致しない場合が多いこと、職員の終身雇用が逆に組織の硬直化を生みがちな点など。

一体組織と分離組織の比較

<第1案> 一体組織

- ・利点は、施設全体を一体的に管理できる点、ホール部分と美術館の連携が期待できる点。
- ・課題は、「ホール部分」「美術館」それぞれのトップが館長とならないことでの事業実施上の課題。事務処理の煩雑化、館長人事の困難さ、各部門のプロデューサーが実質上のトップとして機動力のある組織としていくことが困難な点など。

<第2案> 美術館分離案

- ・利点は、ホール部分と美術館がそれぞれの館長のもと、意思決定スピードの速い機動力のある組織となること。
- ・課題は、事務処理や施設管理が非効率な点、危機管理面での課題など。